

—特集〔日本医科大学先端医学研究所 Cutting Edge Research (7)]—

日本医科大学先端医学研究所について

田中 信之

先端医学研究所所長

日本医科大学先端医学研究所は、緒方洪庵の孫にあたる緒方知三郎 東京大学名誉教授が設立した老人病研究所（1954年発足）を前身としています。1968年に日本医科大学の附置研究所となつてからは、加齢科学を中心とした研究から、分子・細胞レベルから個体に至る生命科学の研究へと研究課題を発展させてきました。その後、ヒト全ゲノム配列の決定を経て全ての細胞の mRNA やヒトを構成する全てのタンパク質や代謝産物を同定することが可能となり、この技術革新を背景とした医学研究の急速な発展に対応していくために、2015年4月に研究所を改組し、先端医学研究所として新たな研究施設として出発しました。研究所は医学博士課程を担当する5つの分野を含む6つの部門によって構成されており、医学の広い領域にわたる最先端の研究を行っています。これまで武蔵小杉病院内に研究所は設置されていましたが、武蔵小杉病院再開発に伴い2019年から千駄木の日本医科大学大学院棟に移転を開始し、現在は大学院棟で新たな研究所とし

て再始動しています。移転に伴い、これまで以上に基礎医学教室、臨床医学教室との研究の交流が進んでいます。新たに生まれ変わると共に、2016年に福原茂朋 病態解析学部門長、2017年に岩井佳子 細胞生物学部門長、2018年に浜窪隆雄 タンパク質間相互作用学部門長、2020年に本田一文 生体機能制御学部門長を迎えました。これにより、これまでの研究所にはなかった幅広い分野の多くの若い研究者が結集しており、現在の最先端の研究に幅広く対応できる体制が整っており、「先端医学」の名に相応しい研究所となっております。今回の「日本医科大学先端医学研究所 Cutting Edge Research」では、それぞれの部門の最新の研究やこれからの方向性が解説されており、日本医科大学医学会に参加している多くの医師の皆様へ新しい研究所を理解して頂けるものと確信しております。興味を持たれた方は、是非とも連絡して頂き一緒に医学研究の発展を目指して行きたいと研究所一同考えております。